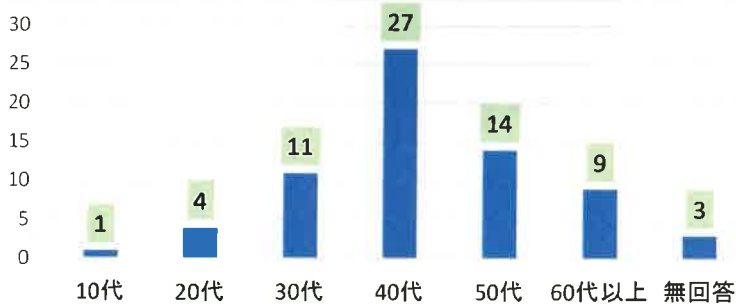


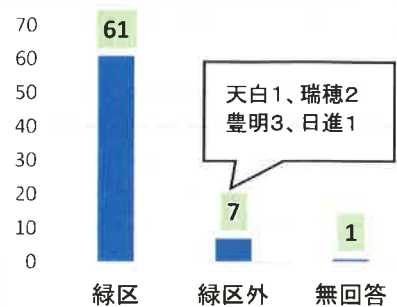
平成29年度 第2回緑区多職種連携研修会(H29.11.19) アンケート集計結果

参加者数 78人
 アンケート回収数 69枚
 回収率 88.5%

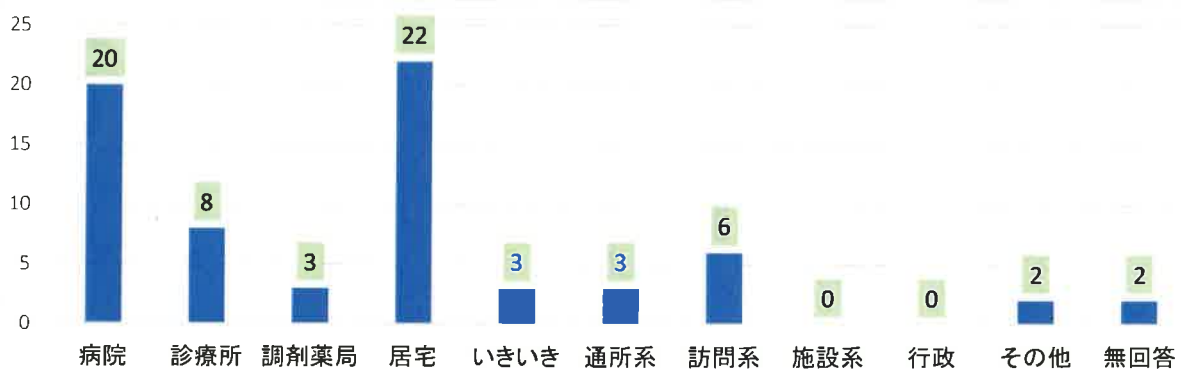
1. 年齢



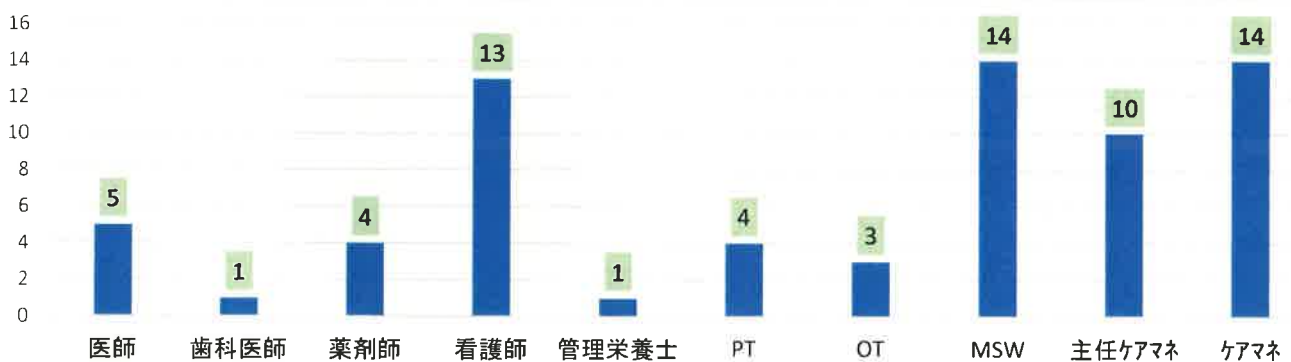
2. 職場所在地



3. 職場



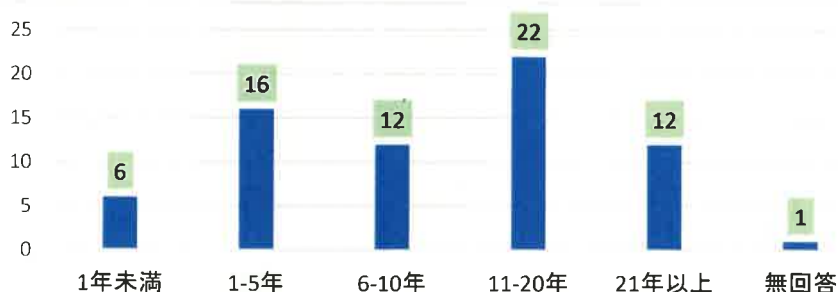
4. 職種



※ケアマネ基礎資格内訳

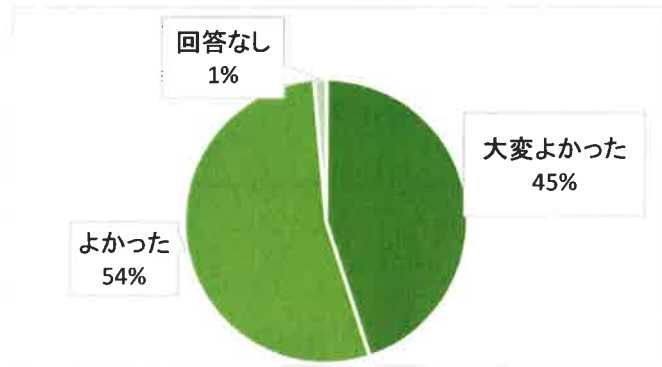
主任ケアマネ	医療系	人数	ケアマネ	医療系	人数
	医療系	3		医療系	0
	介護福祉系	3		介護福祉系	6
	無回答	4		無回答	8

5. 経験年数

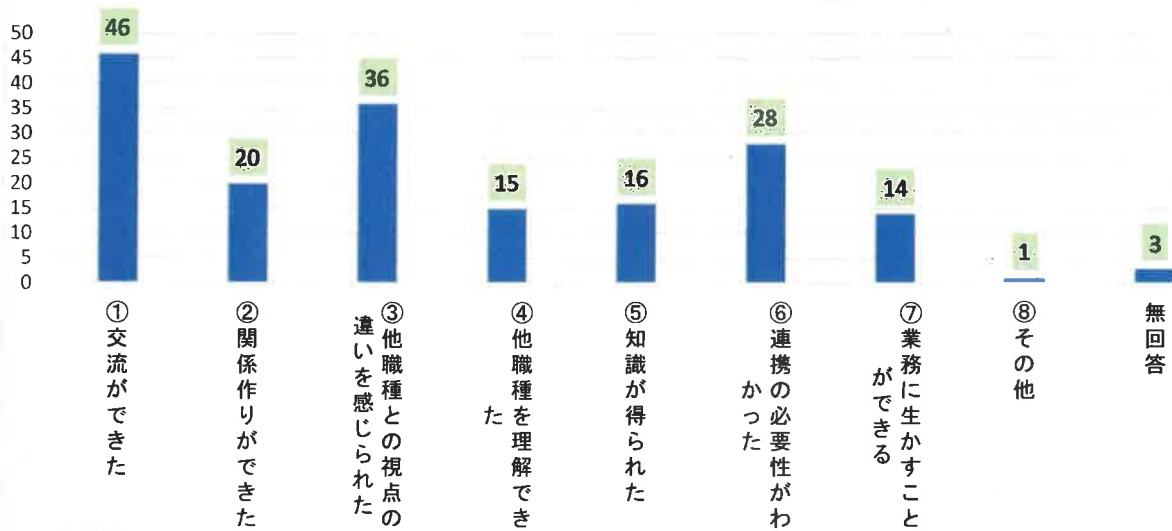


6. 本日の研修について
(1)参加してよかったと思いますか？

大変よかった	31
よかった	37
回答なし	1
計	69



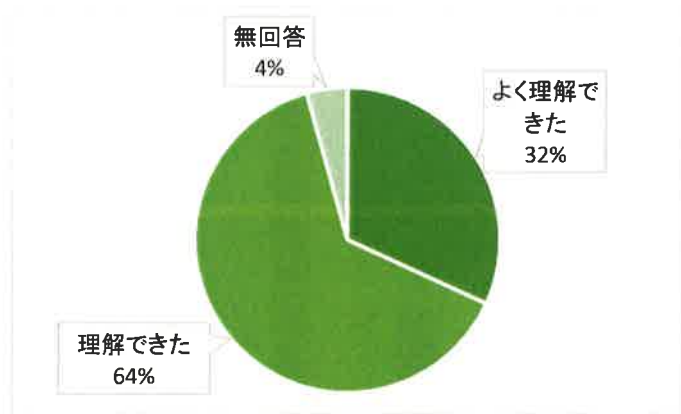
よかったと思う理由はなんですか？
(複数回答)



※⑧その他: 病院側・在宅側それぞれの事情がよくわかった

(2) 病院の「退院支援の実際」について理解できましたか？

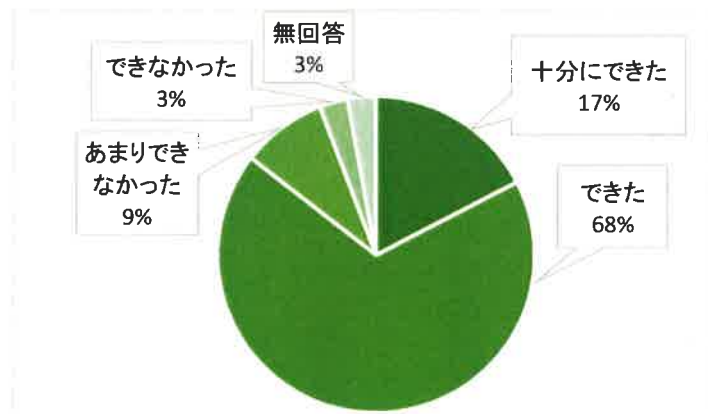
よく理解できた	22
理解できた	44
無回答	3
計	69



(3) グループワークについて

① 課題や対策について、どの程度話し合うことが出来たと思いますか？

十分にできた	12
できた	47
あまりできなかった	6
できなかった	2
無回答	2
計	69



(3)②話し合いを通して、あなたは何が「地域の退院時連携の課題」だと思いましたか？（回答者数55／69）

大項目	中項目	延べ件数	回答(抜粋)
情報共有 情報提供 情報収集	情報共有	24	職種及び病院・事業所間での情報共有も必要だが、該当する患者及びご家族の方々への情報共有が非常に不足している点 1人の方についての情報が途切れてしまうことが一番問題だと思いました。 病状だけでなく、生活上の課題が特に必要。
	情報提供・発信	4	関係機関が何の情報も求めているか知ること。知れる場を作ることが課題であり、大切。
	情報収集・把握	3	病院への情報収集、情報提供力
相互理解	個人情報扱い	1	
	在宅イメージ	2	情報を共有できるために発信し合うこと。自宅での生活をイメージして連携すること。
相互理解	相互理解・歩み寄り	11	双方の積極性と歩み寄り
	ズレ	4	それぞれの立場、環境の違いによるベクトル(方向性)のズレがあること。
交流・連絡	コミュニケーション	7	院内でのコミュニケーション、患者・家族とのコミュニケーション、在宅側ケアマネなどのコミュニケーションをよく取り、しつかり共有すること
	積極的な関わり・連絡	5	在宅側と病院がわのどちらからも連絡を取り合うようにしないとダメだと思った。
関係作り	顔の見える関係	7	
	交流機会	2	お互いの問題に対して解決する場所や機会がこのようにあればもっと充実した連携が行えるのではないかと思う。
連携のあり方	役割分担	2	各役割と連携方法、具体的な状況ごとの対応方法を共有できることには道具が必要だと思います(人と道具のネットワーク)
	課題と目標の明確化	1	事前に情報共有をしっかりとかりてカンファを開く。目標と課題を明らかにする。全体にお互い顔が見える関係をつくること。
連携	連携	5	在宅と医療、病院内、本人と家族との連携が必要と感じた。
その他	その他	4	医療と在宅の連携がポイントだとは思いますが、プラス、家族の心構えも重要だと思った。

(4)本日の研修を踏まえ、これからあなたが業務において心がけていきたいと思うことはありますか？その内容を教えてください。（回答者数43／69）

- ・患者さんがより安心できる環境で生活できることを第一に考えたい。
- ・患者と家族のよい生活支援のために密な情報共有
- ・ご利用者のための情報収集、連携。
- ・本人家族の意向の確認。医療機関との情報交換を心がけていきたい。
- ・患者家族の思いをしつかり聴き、在宅の力量をアセスメントし、しつかり関係機関と連携をとる。退院後訪問に行きたい。
- ・患者さん、ご家族の思いを知りつつ、訪問看護師さん、ケアマネさんとの連携を強化していく。
- ・退院時に家族さんに情報提供が必要なので、考えます。(ケアマネさんにはサマリーがあるが、書類について考える必要あり)
- ・退院後も積極的に病院の方に利用者様の状況をお伝えしていきたいと思つた。在宅での写真など。
- ・在宅チームと患者様の情報共有が大切であり、継続していくケアが必要
- ・相手のこと(生活・業務)を思つて動けば自然とお互いの不満がなくなつていくと思う。
- ・相手の立場も苦しいな、と思う。対応する時にそういうところも踏まえつつ連携できればと思つた。

本人・家族を中心とした支援	6
情報共有	8
情報の確認	4
速やかな情報提供	4
情報収集	2
連携強化	4
コミュニケーション	4
顔の見える、気楽に相談できる関係づくり	6

7. 部会に期待すること、その他意見・感想等 (回答者数21/69)

<p>研修テーマ、 提言、 要望など</p>	<p>それぞれの職種が「どのような視点で」「どのような専門性を持って」「利用者・患者に接しているかを理解するための場が欲しい。地域側から症例発表を頂いて、病院とのつながりの実際を話し合う機会があれば、より身近な連携への理解が深まるのではないかと思う。</p> <p>食に関する研修会。食べれないが食べたい、食べさせたい方が増えているため。</p> <p>部会で行っている内容など広報誌などはあるか？</p> <p>病棟スタッフの参加が必要。</p> <p>会場が大変寒かった。会場の選択は環境考慮をお願いしたい。</p> <p>訪問歯科を行うにあたり、退院後や在宅医療の方の問題点がわかるようになってきた。</p> <p>退院支援加算を取るための動き(病院)なんだと改めて思った。</p> <p>連携と言いつつ、それぞれの立場の仕事を追われてしまい、できないことも多い。書式の統一など省けるところは省いてうまく回るようにできるといい。</p> <p>病院側の意見と受け側との意見のすり合わせが難しい。在宅側の話をきいてもらえなかった。残念だった。</p> <p>加算の決まり事に縛られたり、異業種同士の理解度を上げていかないと難しいと思った。このような会をたくさん続けて、病院側・在宅側が歩み寄っていけるといいと思った。</p> <p>顔の見える会で今後も依頼しやすいかと思った。</p> <p>今回初めての参加でしたが顔の見える関係づくりが大切と感じました。その機会が今後もあるといい。</p> <p>定期的に交流ができる場や機会を作っていただきたい。</p> <p>交流できる機会がたくさんあると思う。</p> <p>今回のような顔を合わせて互いに知り合うことが重要と思われた。</p>
<p>感想</p>	